

第 107 回日商簿記 3 級 第 1 問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	売	掛	金	買	掛	金
仕	入	売			上	受	取	手	支	払	手
備	品	手	形	売	却	損	支	払	利	息	受
所	得	税	預	り	金	受	取	手	数	料	支
未	払	金	租	税	公	課	前	受	金	前	払
仮	受	金	仮	払	金	損		益	資	本	金
手	形	貸	付	金	手	形	借	入	金	受	取
								地	代	支	払
										地	代

- 得意先出井商店に商品 ¥ 600,000 を売り上げ、代金のうち ¥ 100,000 はかねて受け取っていた手付金を充当し、¥ 300,000 は澤田商店が振り出した約束手形の裏書譲渡を受け、残額は掛けとした。
- 店主が負担すべき所得税 ¥ 300,000 および当店の負担とすべき固定資産税 ¥ 100,000 を小切手を振り出して支払った。
- 南部商店から、年利率 5%、期間 6 か月の条件で ¥ 1,000,000 を借り入れ、現金を受け取った。なお、利息を含めた金額の約束手形を南部商店あてに振り出した。利息は月割計算するものとし、約束手形の振り出しに伴う債務は手形金額で記帳すること。
- 家具卸売業を営む小笹家具店は、販売用の椅子 20 台を @ ¥ 20,000 で信太商店から購入し、代金は翌月払いとした。その際の引取運賃 ¥ 30,000 は、現金で支払った。
- 決算日において、売上および受取地代の勘定残高を損益勘定に振り替えた。なお、当期中の総売上高は ¥ 2,000,000 、戻り高は ¥ 50,000 、値引高は ¥ 30,000 であった。また、当期中の地代の受取高は ¥ 60,000 、決算日における未収高は ¥ 20,000 であった。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	前受金	100,000	売上	600,000
	受取手形	300,000		
	売掛金	200,000		
2	資本金	300,000	当座預金	400,000
	租税公課	100,000		
3	現金	1,000,000	手形借入金	1,025,000
	支払利息	25,000		
4	仕入	430,000	買掛金	400,000
			現金	
5	売上	1,920,000	損益	2,000,000
	受取地代	80,000		

・解説

1. 売上取引に関する問題です。

このような問題は【前受金に関する取引】【裏書手形に関する取引】【掛け売上に関する取引】の3つに分けて考えましょう。

【前受金に関する取引】

問題文に「代金のうち ¥ 100,000 はかねて受け取っていた手付金を充当し」とあるので、売上に先立って手付金を受け取っていたことが分かります。なお、手付金受取時の仕訳と、当該手付金を充当する仕訳は以下のようになります。

☆（参考）手付金受取時の仕訳

（借）現金など 100,000 / （貸）前受金 100,000

★解答①

（借）前受金 100,000 / （貸）売上 100,000

【裏書手形に関する取引】

問題文に「¥ 300,000 は澤田商店が振り出した約束手形の裏書譲渡を受け」とあるので、他店振出の約束手形の受け取り、つまり受取手形の増加として処理します。

★解答②

（借）受取手形 300,000 / （貸）売上 300,000

【掛け売上に関する取引】

これは簡単です。普通に掛け売上をした時の仕訳を切るだけです。

★解答③

(借) 売掛金 200,000 / (貸) 売上 200,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

このように、取引をひとつひとつに分解して考えれば十分正解にたどりつける問題です。

2. 資本の引き出し・租税公課に関する問題です。

店主が負担すべき所得税を会社が肩代わりして支払った場合は**資本の引き出し**として処理し、当店の負担とすべき固定資産税を支払った場合は**租税公課**で費用処理します。

なお、本問は問題で列挙されている勘定科目の中に資本金がある（引出金がない）ので、資本の引き出しに関する仕訳は**資本金で処理**します。

- ・店主が負担すべき所得税（300,000 円）：**資本金の減少**として処理
- ・当店の負担とすべき固定資産税（100,000 円）：**租税公課**で費用処理

資本の引き出しに関する問題は、第 102 回の問 3や第 106 回の問 4、第 111 回の問 3、第 114 回の問 2、第 117 回の問 5、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 126 回の問 5、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 135 回の問 4、第 136 回の問 1、第 139 回の問 4、第 145 回の問 1、第 147 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

租税公課に関する問題は第 106 回の問 4や第 111 回の問 3、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 135 回の問 4、第 137 回の問 2、第 139 回の問 4、第 141 回の問 5、第 146 回の問 3、第 147 回の問 2、第 150 回の問 5でも出題されているので、こちらもあわせてご確認ください。

3. 手形借入金に関する問題です。

本問のように、借り入れにあたって借用証書の代わりに手形を振り出した場合、**通常の借入金と区別するために手形借入金勘定を使って処理**します（仕訳の考え方や処理方法は、通常の借入金と同じです）。

- ・借用証書による借り入れ：借入金勘定で処理
- ・約束手形による借り入れ：**手形借入金勘定**で処理

利息に関しては、問題文に「**利息は月割計算するものとし、約束手形の振り出しに伴う債務は手形金額で記帳すること**」とあるので、以下の計算式で支払利息の金額を計算しますが、貸方に計上する手形借入金勘定の金額は、**利息を含めた金額（1,000,000 円 + 25,000 円）**になる点に注意してください。

$$1,000,000 \text{ 円} \times 5\% \times 6 \text{ か月} / 12 \text{ か月} = 25,000 \text{ 円}$$

手形借入金に関する問題は第 119 回の問 3や第 139 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 仕入取引に関する問題です。

まず本問は問題文の「**販売用の椅子 20 台を @ ¥ 20,000 で信太商店から購入**」という一文に注意してください。

なんとなく仕訳を切ろうとすると「椅子の購入→備品の購入」と考えてしまいますが、購入した椅子は**販売用**なので、仕入勘定と買掛金勘定を使って処理します。

なお、社内で使う目的で椅子を購入した場合の仕訳は以下のようになるので、参考までにご確認ください。備品勘定と未払金勘定を使って仕訳を切ります。

☆（参考）販売目的でない場合の仕訳

(借) 備品 430,000 / (貸) 未払金 400,000
(貸) 現金 30,000

また、引取運賃などの付随費用は商品を仕入れるさいに不可避免的に発生する費用なので、仕訳を切るさいは**仕入勘定に含めて処理**します。

商品の仕入原価 (430,000 円) = 購入代価 (400,000 円) + 付随費用 (30,000 円)

5. 損益の振り替え（決算振替仕訳）に関する問題です。

本問は【売上に関する仕訳】と【地代に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【売上に関する仕訳】

損益勘定に振り替えるのは総売上高ではなく、戻りや値引を考慮した純売上高になるので、まずは純売上高を計算しましょう。純売上高が計算できたら、これを損益勘定に振り替えます。

総売上高 2,000,000 円 - 売上戻り 50,000 円 - 売上値引 30,000 円 = 純売上高 1,920,000 円

★解答①

(借) 売上 1,920,000 / (貸) 損益 1,920,000

【地代に関する仕訳】

問題文に「決算日における未収高は ¥ 20,000 であった」とあるので、まずはこの未収分を適切に処理しましょう。

☆地代の未収分に関する仕訳

(借) 未収収益 20,000 / (貸) 受取地代 20,000

この仕訳を切ることによって、受取地代勘定は **80,000 円 (=60,000 円+20,000 円) の貸方残**になるので、これを損益勘定に振り替えます。

★解答②

(借) 受取地代 80,000 / (貸) 損益 80,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

損益の振り替えに関する問題は、第 105 回の問 5や第 125 回の問 4、第 133 回の問 5、第 150 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。